

超短編^⑱

「赤坂中年合唱団」(20020828)

この前41歳になりました。数えて42歳。
一般的に、この歳は厄年だなんだと畏れられているようだけど、僕には待ちに待った41歳の誕生日だった。
やっと手に入れた。加入権利を。

団員は満41歳から60歳の男子とする。
人種および国籍は問わない。

団員は住居もしくは常勤する職場を港区赤坂1丁目から7丁目に有する者とする。ただし、職業の有無もしくは職業を有する者についてその職種は問わない。
(赤坂中年合唱団加入資格の抜粋)

歴史と伝統を誇る、あの「赤坂中年合唱団」の加入資格を遂にゲットしました。
「ゲット」と言っても住居地や職場は別として、年齢については本人の努力ではどうしようもないのですから、誕生日が訪れるのを、ただひたすら指折り数えて待っていました。
9月4日(水)に入団テストを受けてきます。
今からどきどき、心臓が口から出てきそうです。

さて「赤坂中年合唱団」と言えば、男性のみの合唱団としては「ウィーン少年合唱団」に次ぐ古い歴史を持つ、伝統と格式を重んじるアマチュア合唱団です。

創立は嘉永5年と言いますから、西暦では1852年です。
なんと明治天皇の生まれた年です。

そして、今年は創立150週年の記念の年です。
今年で150歳、すごいなあ。おめでたいなあ。

ところで150年前、江戸の中年男性達は、いったいどんな曲を歌っていたのでしょうか。とても、興味があります。

もともと、日本には和音という概念が存在していなかったもので、いわゆるハーモニーを持った歌は歌われていない可能性は相当高いです。

考えてみれば昔、音楽の授業で、音楽の構成要素として「リズム、メロディー、ハーモニー」があると習った記憶があるけれど、日本の音楽には構成要素の1つである「ハーモニー」がそもそもなかったことになる。

まあ、西洋音楽を音楽と言うならば、という前提つきだけど。

とりあえず曲目がわかっている最古の記録としては、1900年(明治33年)に、わが国最初の合唱曲と言われている滝廉太郎の組歌「四季」を鹿鳴館で披露した、というものです。

ビバルディの「四季」ではございません。念のため。

ところで、赤坂中年合唱団はアマチュア合唱団なので、あまり表だった活動はしていないのですが、有名なところでは、1966年（昭和41年）の6月30日から7月2日、ビートルズの来日公演の日時に合わせて、場所もビートルズが歌っている武道館のすぐそばの九段会館で「ビートルズ来日公演反対チャリティコンサート」を行っています。

正しい西洋音楽の普及を熱心に行ってきた赤坂中年合唱団としては、「ビートルズの音楽なんて、本物の西洋音楽ではない」という思いが強く、日本の青少年への悪影響を懸念して、ビートルズの来日に強く反対していました。

この「ビートルズ来日公演反対チャリティコンサート」は、反抗もむなしく、結局来日が決定してしまったビートルズとそのファンに対する抗議コンサートでした。

あれから約40年、赤坂中年合唱団も、今ではビートルズの曲目もレパートリーに加えているそうです。時の流れと時代の変化を感じずにはいられません。

さて、1週間後には入団テストがあります。

この3カ月間、毎週木曜日にはボーカルスクールにも通いました。

今や正しい腹式呼吸も身に付きつつあります。

最初のうちは力の入れ具合がつかめなかったり、力のいれる場所が間違ったりで、何度もトイレに駆け込みました。

でも、もう大丈夫。

あとは体調を整えて、風邪などひかないように気をつけて、本番に臨むだけです。

年末にはきつと、憧れのベートーベンの「第九」をどこかの大ホールで歌っているはず。

超短編シリーズはフィクションです。念のため